太郎・次郎

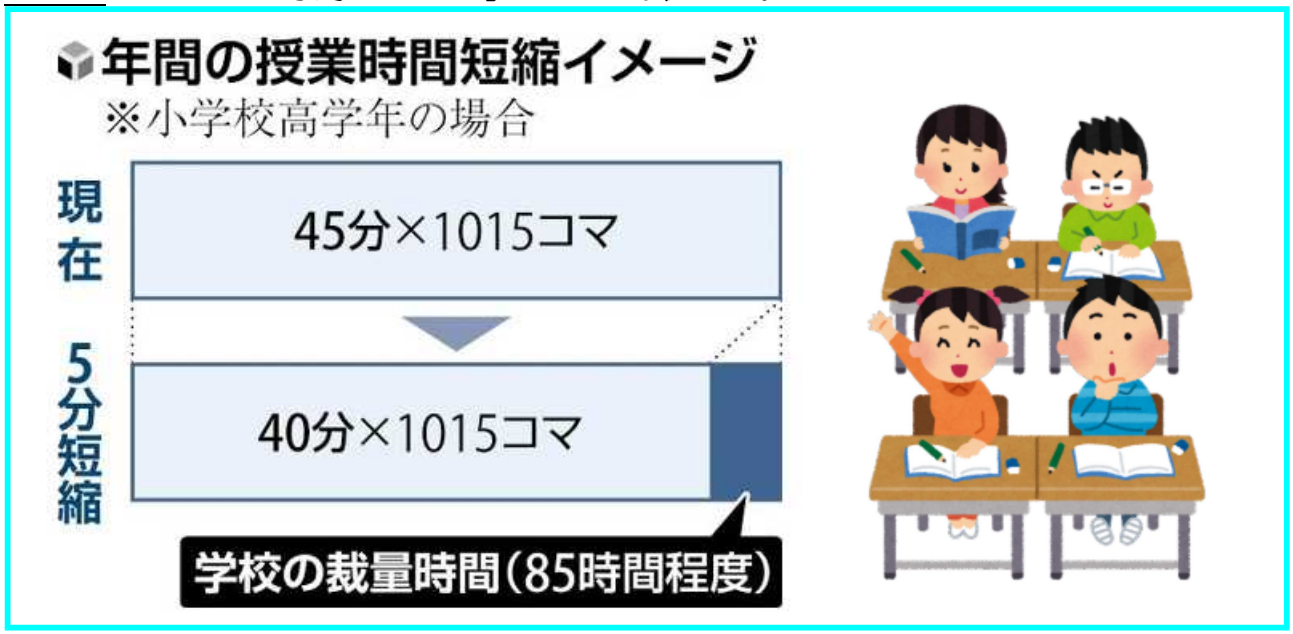
石岡市立東成井小学校
学校だより　３７号
令和６年２月１６日
校長　　石崎　重臣

「太郎・次郎」は，校庭にそびえるいちょうの木です

【組織目標】児童が主役　みつけよう　かんがえよう　やってみよう～認める　寄り添う　支える～

たかが5分…、されど5分…！

先日、テレビのニュースで気になる報道がありました。「文部科学省は、小中学校の授業時間を見直し、学校の裁量を拡大する方向で検討を始める。授業時間を５分短くし、短縮分を各校が自由に使えるようにすることなどを想定している」という内容です。



小中学校の授業時間は、学校教育法施行規則に「標準例」として示されています。現在、１時間の授業時間は、小学校４５分、中学校５０分で、年間１０１５コマの授業時間数で換算すると、小学校では年間約７６０時間、中学校は約８４５時間が授業に充てられていることになります。

文科省はこれを小中とも５分短縮して小学校４０分、中学校４５分に変更することなどを視野に入れているということです。授業が５分短くなれば、小学校、中学校ともに約８５時間（５０７５分）の差が生まれ、これを各校が弾力的に運用できるようにすることが可能になるわけです。２０２７年に学習指導要領が改訂される見通しで、これに合わせて授業時間短縮の検討を本格化していく方針といえます。

その背景には、子どもの学力や教育環境の地域間格差が広がっていることが懸念されています。各校が画一的な授業を横並びで実施しているだけでは対応が難しく、裁量拡大によって学校現場の創意工夫を促す狙いがあるとされています。「思考力育成を目指した探究活動」や、「基礎学力定着のためのドリル学習」など、各校がそれぞれの実情に応じて指導に生かすことが期待されているとのことでした。

日々の生活の中で「５分」という時間は意外と貴重です。「５分」の時間的余裕は諸活動のゆとりにつながります。授業時間の「５分短縮」について、私たち教職員は「授業の在り方の変革のきっかけになり得る」という視点をもって、襟を正して考えていきたいと思います。

２月も半ばを過ぎました。まずは「５分」という時間を丁寧に扱い、子どもたちの考えに耳を傾けたり、楽しく語り合ったり、一問でも多く問題を解いたりして、わずかな時間でも意義のある活動に充てていく姿勢を続けていく所存です。ぜひ、お気づきの点等、保護者の皆様からのご意見も遠慮なくお聞かせください。